

# 「食」と「農」の再生に向けた農協の構造改革

## < 情勢は大きく変化 >

### 【戦後】

均質な小規模農家  
(618万戸:1950年)  
集落は農家中心で構成  
農協の購買・販売活動  
= 農家メリットに直結  
消費者の関心は農産物の  
量的確保

### 【近年】

農家数の減少・分化  
(307万戸:2001年)  
農協職員数の減少は  
緩やか(約30万人)  
集落の混住化が進行  
大規模農家等について  
農協離れの傾向  
消費者ニーズは多様  
化・高度化(量より質へ)  
食品の安全・安心に  
対する関心の高まり  
農産物価格低迷の一方、  
資材コストの低減が進まず

## < 農協に対する各方面からの不満や批判の例 >

・消費者の食の安心・安全の  
不安への対応が不十分

・企業家マインド(買うリスク、  
売るリスクへの意識等)が乏しい

・やる気のある農家の経営に  
十分役立っていない

・農家よりも「農協のための  
農協」となっている

消費者ニーズへの  
的確な対応

組織・事業の  
効率化・スリム化

アグリビジネスとの  
公平な競争条件の確立

補助金依存体質  
からの脱却

## 有識者との検討の場を設置

(平成14年9月下旬~)

- 国民の声を改革に反映 -

平成14年度末までに  
農協改革の方向をとりまとめ

# 新たな農協への脱皮

「制度・政策改革集中審議」について（抄）  
- 内閣総理大臣指示 -

平成14年7月19日  
閣僚懇談会

農林水産大臣

国民の期待に応える食料産業の活性化と農業の構造改革を推進する観点から、以下の制度・政策改革を論じていただきたい。

- ・ 農産物・食品流通体制の見直し（特に、農協改革、安全・安心の観点等）
- ・ 米政策の見直し（特に、生産調整等）
- ・ 企業的農業経営が展開するための制度改革（意欲と能力のある経営体への政策の集中等）
- ・ 規制改革の観点（例：土地利用規制法の見直し）

など